

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2017.3.31 No.56

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目 次

・高柳 俊男「小池聖一氏の講演から触発されたこと — 2016 年度全国大学史資料協議会参加記」……………	1
・山崎 一城「全国大学史資料協議会全国研究会に参加して」……………	3
・奥田 環「印刷博物館見学会に参加して」……………	5
・浅沼 薫奈「創設者研究に見る自校史研究の可能性—東洋大学井上円了記念博物館 及び井上円了研究センターの活動内容から—」……………	7
・全国大学史資料協議会 2016 年度総会議事録・講演記録……………	9
・全国大学史資料協議会 2016 年度役員会議事録……………	10
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録……………	11
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録……………	14
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿……………	19

2016 年 10 月 6 日～ 8 日 全国大学史資料協議会 2016 年度総会ならびに全国研究会・講演

小池聖一氏の講演から触発されたこと — 2016 年度全国大学史資料協議会参加記

法政大学 高柳 俊男

2016 年度の全国大学史資料協議会の総会
および全国研究会は、10 月 6 日から 3 日間、
広島大学キャンパスを会場に開催された。

大会初日の講演は、開催校の文書館館長で、
協議会会長としてもご多忙なはずの小池聖一
氏が、「初代学長森戸辰男にみる『学問の自由』
と『大学の自治』」のタイトルで自ら担当さ
れた。それを聞いて触発されたことを中心に、
参加記を雑感風に綴ってみた。

まず冒頭で、森戸辰男と言えば、戦前は森
戸事件で弾圧され、戦後は文部大臣や中央教

育審議会長として政府の立場から教育行政を
推進したが、「彼の思想や立ち位置は変わっ
たのか」との問題を提起し、それに答える形
で報告が進められた。ここでその論証の詳細
は省くが、各種論争の検討などを通じて、森
戸の姿勢は戦前戦後を通じて一貫していたと
の結論に至る。いわば、個人が変わったので
はなく、時代が変化してしまったという見方
で、そこには講演者の個人的体験も投影され
ているのではないかとも思われた。

たしかに、ある人物の評価に関して、類似

の感懷を抱くことは誰しもある。この報告中にも登場した矢内原忠雄は、高校までに習った限りでは学問の自由を守ったりベラルな思想の持ち主だが、大学に入って知ったところでは、「矢内原三原則」なるものがあり、学生大会でストライキを決議した場合、その提案者と自治会委員長、学生大会議長の三者を退学処分とすると規定していた。かつて大学闘争で問題になり、廃止の方向で停止されていたが、私の在学時には正式に廃止されたとは聞かされていなかった。矢内原忠雄という人物のイメージの落差に、何とも言いえない複雑な思いにとらわれたことを思い出す。

しかし、今回の森戸辰男の場合と同様、それを矢内原忠雄の思想の変化や変節と単純に決めつけてはいけないうのだろう。一人の人物への認識や評価は、高校時代までの〇×式の二分法で済むほど単純なものではありえない。この場合なら、対象とする人物が「学問の自由」や「大学の自治」に対して、そもそもどういう認識を抱いていたかを、時代に沿って丹念に読み解く作業が必要であろう。そして、そうした営為を可能にするためにも、文書館が存在し、各種の関連資料を丁寧に収集・整理・公開して、利用に供する地道な作業が重要となるのである。

聞けば、広島大学に存在する森戸辰男の資料は、総数で3万7千点を数えるとのこと。文書館に籍を置く研究者として、そうした広汎な資料に丹念に目を通した上で先の結論が導き出されたのであろう。その意味で、やや早口の報告で、門外漢の私には十分理解できたとは言いがたいが、興味深い問題提起だったと受け止めている。

報告では、河合栄治郎や高野岩三郎、大内兵衛、久留間鮫造、細川嘉六をはじめ、森戸

辰男をめぐる同時代の人物が多数登場した。そうした人物間には社会主義と自由主義など、思想上での違いがあるが、人間関係を考える際、思想だけが唯一の尺度とはならず、出身地、学閥、交遊関係や縁戚関係など、様々な要素が影響を及ぼしていることに、あらためて気づかせてくれる報告でもあった。

それで思い出すのは数年前、授業で石田雄の『一身にして二生、一人にして両身：ある政治研究者の戦前と戦後』（岩波書店）を読んだが、その中に石田が学徒出陣で入隊する際、息子の死を覚悟した父親が、大内兵衛と大川周明という思想傾向のまったく異なる2人の親友に息子を引き合わせた話が出てくる。この事実をのちに知った中国文学者の竹内好は、父親のバランス感覚に驚嘆するが、実は父親と大内兵衛・大川周明は同じ旧制五高（熊本）の出身者なのである。

こうした学閥、とくに旧制高校の濃密な人間関係は、いまの時代からはなかなか想像が難しいだろう。同様に、軍隊が縁遠くなった現在、軍隊内部の階級間の格差や、独特な軍隊文化はわかりづらくなっている。ある時代には日常のありふれた光景だったものが、それが消え失せた現在からすると理解に困難をきたすのは、たとえば炭鉱労働や養蚕など、



講演する小池聖一氏

生産労働の面でもいろいろ存在しよう。そうした空白を補うものが、たとえば世界記憶遺産となった山本作兵衛の炭坑労働の記録画をはじめ、当時の生の資料であることを考えると、大学史資料をはじめ、各種の資料類を散逸から防ぎ、後世に伝える作業の大切さをいまさらながら思い知らされる。

質疑応答の中でも出たが、大内兵衛はのちに法政大学の総長になり、また森戸がかつて在籍した大原社会問題研究所も戦後、法政大

の付属機関になった。ここからわかるように、大学史の研究は一個別大学の話に止まらない拡がりをもっており、資料や問題関心を共有する必要性が痛感される。その意味でも本協議会の大会冒頭に相応しい、意義ある講演内容であった。

なお、講演と軌を一にする展示が広島大学の図書館で開催されており、2日目の昼休み、小池館長ご自身の解説を聞きながら観覧し、この講演を反芻させていただいた。

全国大学史資料協議会 2016 年度全国研究会

全国大学史資料協議会全国研究会に参加して

2016 年 10 月 6 日（木）から 10 月 8 日（土）の 3 日間に渡り、2016 年度全国大学史資料協議会 2016 年度総会ならびに全国研究会が、広島大学東広島キャンパス学生会館 2 階レセプションホールにて開催された。同研究会の概要と感想を報告したい。

2016 年度総会終了後、16 時より、本研究会会場校である広島大学文書館長の小池聖一氏より講演があった。広島大学で 1950 年（昭和 25 年 4 月 19 日）から 1963 年（昭和 38 年 4 月 1 日）まで初代学長を勤められた、森戸辰男氏について、史実に基づき「学問の自由」と「大学の自治」を護る「大学人」としての生涯が論じられた。

翌 10 月 7 日（金）に、同会場で 2016 年度全国研究会 2 日目が開催された。

はじめに、本研究会の企画「キャンパス形成史」について、趣意書を通して発題があった。

創価大学 創価教育研究所 山崎 一城

引き続き本総会で信任された、全国大学史資料協議会長神奈川大学池原治氏より挨拶があった。

はじめに、東海大学学園史資料センター椿田卓士氏より、「東海大学湘南キャンパスの「記憶」～キャンパスの形成と大学史資料～」との題目で第 1 報告がされた。同大学の沿革が紹介され、2016 年の現在は、8 キャンパス・21 学部・86 学科の陣容に発展し、敷地面積は 2,106,833 m²、校舎面積 567,581 m²、学生数 28,851 人（沼津、旭川は 2015 年閉校）となった。湘南キャンパスが選定された背景には、同大学創立者松前重義氏の方針が強く反映され、同大学にとって将来にわたり中心となり、多くの志願者に応える大規模なキャンパス建設の必要性があった。次に創立者の思想に関する資料が紹介された。「私は学校をつくる

ならば、今までのような都会の真中にもってきてはいけない。このスモッグの汚れた空気の中ではほんとうの教育はできない。大自然の中に抱かれて、偉大な気宇を養えるところで勉強させる必要があると考えていた」「大学は富士山が見えるところで太平洋の怒濤を耳にしながら、富士の高嶺を仰いで悠遠な日本の使命、平和の使命を自覚するような場所にしたいと思う」（松前重義著『東海大学の精神』1969年東海大学出版会より）同大学の特徴といえる独創的なデザインが生み出された要因として日本近代建築のパイオニアとして活躍され、創立者とは通信省時代からの盟友であった、山田守氏（1984～1966）が、1943年に竣工した航空科学専門駒越校舎の設計以来設計を担当したことが挙げられた。1991年（平成3年）に松前氏が逝去されるが、想いの込められたメイン通りの「櫟」の植生、14号館（1992年）、15号館（1995年）、16号館（1997年）、17号館（2000年）と更に規模が拡大された。2014年には理工系学部の教育・研究施設として18号館が竣工と発展した。同大学の資料センターの取り組みとして建設物の独創性を視覚的にアピールすべく、「模型資料（校舎）」が、湘南校舎1号館から代々木校舎（現1号館）まで9点の模型資料、その他、映像、地図、設計図等が紹介された。又、2016年4月16日に被災した阿蘇キャンパスの現状も報告された。キャンパスは、当時在籍した人々の目に映った記憶であり、心象風景である。そうした記憶を記録として残すためには、視覚的に具象化された資料を卒業生も含め多方面から収集した努力が紹介され、変貌してゆくキャンパスの記憶も資料という形で継続的に収集し、



総括討論の様子

次代に伝えてゆく中で生かされてゆくと結論された。

引き続き、広島大学産学・地域連携センター塚本俊明氏より、「キャンパスを計画する～日本建築学会大学・地域デザイン小委員会の取り組み～」との題目で第2報告があった。塚本氏は、建築学会の全国総会にも参加する中、本研究会のテーマに近い専門家として講演依頼され、専門の角度から、海外の諸大学のキャンパス形成史について報告があった。広島大学は、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、特に「地域社会・国際社会との共存」のもと、広大なキャンパスの敷地があるが、門や塀などで地域から隠れる構造にはなっていないことなど、同大学の詳細なキャンパスの形成史の報告がされた。

休憩の後、立命館史資料センター奈良英久氏より、「学園アイデンティティ醸成のためのキャンパス模型—何も残っていないから、目的を特化して再現する—」の題目で第3報告がされた。立命館大学の場合は、草創期のキャンパスが全て無くなったことにより、「時代考証の模型」で歴史が再現された。その作成過程では史実に基づいて様々な角度から

検討がなされ、学生の学びの様子も入れた精密な模型の画像が紹介された。

次に、神戸女学院史資料室佐伯裕加恵氏より、「重要文化財神戸女学院（岡田山キャンパス）」の題目で第4報告があった。この度、神戸女学院岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定されその経緯について説明があった。同キャンパスは神戸女学院のミッションスクールとしてのアイデンティティを可視化した成果でありキャンパス形成史は、そのキャンパスに込められた教育理念の形成史であるとの解説がされた。

第3日目は、広島大学文書館等の施設建学が行われた。

最後に、本研究会のテーマ「キャンパス形成史」のテーマについて、各先生方が誠実にそして着実に積み上げた研究成果に大変感銘

を受けた。本学も私立大学であり、まだ創立45周年と歴史は浅いが、草創より大学のキャンパスの様相は大きく変貌している。卒業生を含めた幅広い年代にアイデンティティを伝える施策として、改めて模型、画像、図面等の資料の有効性を認識した。第1報告をされた東海大学と本学とはご縁があり、本学創立者池田大作氏は、同大学創立者松前重義氏を1975年2月14日に訪問し、湘南校舎ならびに医学部の大学病院（伊勢原市）を視察させて頂いた。（東海大学通信『東海』36号より）私立大学のキャンパス形成史には、創立者の思想反映が色濃く反映されることを、改めて認識した。新しいテーマの研究会であったが、共感し学ぶことが多かった。本研究会の開催に心より感謝申し上げる次第である。

2016年12月1日（木） 研究会

印刷博物館見学会に参加して

お茶の水女子大学歴史資料館 奥田 環

第102回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は、2016年12月1日（木）14時より東京都文京区水道の印刷博物館で開催された。まず同館学芸員宇田川龍馬氏による報告「印刷博物館の概要」「企画展『武士と印刷』について」、凸版印刷（株）クリエイティブ本部大澤留次郎氏による報告「高精度OCR全文テキスト化の技術紹介」をうかがい、ついで印刷博物館の企画展・常設展の見学を行った。これらを通じ、印刷の歴史と文化、技術

を学ぶとともに、OCR（光学文字認識）について知るよい機会となった。

印刷博物館は、印刷の過去、現在、未来をわかりやすく伝えることをコンセプトに、印刷の様々な姿を紹介し、印刷について理解と関心を深めることを目的としている。確かに印刷は私たちにとって実に身近な、あって当たり前だと思っているものであり、印刷を切り口に、あらためて文字文化の歴史に身を置き、自身の世界観を再認識する体験となった。

今回の企画展「武士と印刷」では、武士の「知」による活動（＝印刷）に焦点をあて、武士による印刷物を幅広く展示するとともに、武者絵（浮世絵）に描かれた武士についても紹介し、「刷らせた武士」と「摺られた武士」のギャップを示唆する。そして武士たちが実現させた文治政治に「印刷」が深く関わっていたことを理解させてくれる。展示資料は第一部・第二部あわせて340点を超え（展示替えを含む）、資料を借用した先は約35館にのぼるという、膨大な展示であった。

博物館ではまず宇田川氏の案内でプロローグ展示ゾーンから見学した。ここは「印刷の世界へと導く空間」とのことで、印刷の前史から印刷との出会い、活字や図版の登場と、時代を追って解説されている。非常によく知る資料を目の当たりにして、大いに親近感を抱くとともに、文字や図と共生してきた日常をあらためて思い起こす場となった。

企画展示ゾーンは照明度も低く静謐な空間であった。第一部「武士（もののふ）たちの系譜」に見る歌川国芳の描いた武者の姿は鮮やかで勇ましい。しかし第二部「武士による印刷物」で、大内・朝倉・今川の戦国三大文化から徳川家康に引き継がれ、江戸時代を通して生み出されてきた印刷というものを、膨大な資料をもって出版活動の流れを追って見せる展示こそが、この企画展の主眼であろう。初期のものと後半のものとで技術的に明らかな違いがあり、印刷技術の進歩の様子もわかりやすく見て取れた。展示資料点数が多く、やや駆け足の見学となったが、最後の福沢諭吉『学問ノスゝメ』にたどり着いたときには、

武士の出版活動の大成と次代への展開が感じられて、この企画展の意図するところを十分にくみ取ることができたと思う。

筆者が個人的に目を留めてしみじみ見たのが、松平定信編『集古十種』（1800年頃、木版、印刷博物館蔵）である。「松平定信が柴野栗山などの学者や画家を起用、各地に派遣し、古器物や古書画などを写し取り、編纂した図録集」（キャプションより）で、それぞれの文物を分類し、図版とともに寸法や所在地などを明記する。キャプションに「文化財の保護、考古学的な研究などの観点からみても注目すべきもの」とあるように、これは古器旧物類への関心と理解、資料収集と調査、分類整理、資料情報の記録、資料保存の意識といった博物館学的な視点からも非常に興味深いものである。同書は国立国会図書館デジタルコレクションでも公開されているが、やはり実物を見ると嬉しくなった（手に取れるわけではないが）。

日常的に印刷物、出版物、活字、紙資料に接している身には、非常に居心地のよい空間でつつい長居してしまったが、さて、多様な一般来館者はどのように受け止めるだろうか。「文字が多くて難しい」「同じような冊



見学会の様子

子の資料がたくさん並んでいる」との印象です。すいすいと通過してしまうのではなく、展示ストーリーがきちんと伝わり、「武士の印刷ってこんなにテクニカルで面白いのだ」と思ってもらえるとよいのであるが。

また一方で、紙の文献資料の保存と活用は、私たちにとって大変重要かつ切実な問題で、これもまた日常において身近に取り組んでいることである。資料のデジタル化は様々な形で進んでいる。今回紹介のあった「高精度 OCR 全文テキスト化」については、文献

資料、それも「くずし字」の大量翻刻を可能とし、多彩なデータ形式に変換できるなど、非常に有用であると知った。質疑応答では損益分岐点なども話題にのぼり、今後は各機関の実情に即して有効利用する方法が模索されるものと思う。

今回の見学会は、印刷物と紙資料、そして文字文化に親しむ者として、大変面白く充実した時間となった。この機会を与えてくださった関係者の方々に心より感謝申し上げる次第である。

2017 年 1 月 26 日（木） 研究会

創設者研究に見る自校史研究の可能性—東洋大学井上円了記念博物館及び井上円了研究センターの活動内容から—

大東文化大学・大東文化歴史資料館 浅沼 薫奈

103 回東日本部会研究会は、東洋大学白山キャンパスにおいて開催された。今回の研究会の企画担当をさせていただいた立場から、研究会の主旨・依頼内容を簡単に説明し、講演及び施設見学の内容について感想を記させていただきます。

1. 依頼内容及び目的

東洋大学は、井上円了記念博物館や井上円了研究センターを置き、創設者名を前面に掲げて創設者及び大学研究を推し進める代表的な私学であると言える。多くの私学において創設者研究は積極的に行われる傾向にあるものの、校名と創設者とがすぐに結びつく例は意外に少ない。その中にあって、井上円了の

東洋大学創設に代表される功績は著名であると言えよう。

その東洋大学が百年史編纂事業を経て、特に創設者研究へと特化していき、井上円了研究センターや井上円了記念博物館の設置へと展開していった経緯と活動内容は、各大学のアーカイヴズ活動にとっても非常に興味深いものであり、その特徴などを紹介してもらうことで各校の諸活動の参考になることも多いと考え、今回の研究会の企画を提案、実施することとなった。

2. 講演内容から

研究会前半では、円了記念博物館の設立経緯と活動内容を軸に、井上円了研究について

説明いただくことを目的として、学芸員として井上円了記念博物館の活動を支える北田建二氏より、博物館の概要及び井上円了の生涯と教育活動についてお話しいただいた。

同博物館は、建学理念を示すとともに、学内所蔵資料や研究成果という「知的財産」を学内外へ公開するという目的によって設立された。学芸員課程の実習を同時に行う「博物館」施設としても有効活用されており、非常に興味深い試みが多数なされている。

井上円了の生涯について伺っていくと、東洋大学の創設が軸となりつつも、円了の人物像そのものがユニークであったことが印象に残った。北田氏の説明からは「哲学館事件」における対応とその後の学内の軋轢、「妖怪研究」を進めていく円了の人柄がよくわかり、単なる顕彰にとどまらず、柔軟な観点から創設関係者を研究していくことが自校史をより充実させることができるのだらうと、改めて考えさせられた。

3. 施設見学から

研究会後半では、見学会として博物館内の展示室及び学芸員実習室、加えて特別に井上円了研究センター内と図書館に所蔵されている円了関係の貴重な書籍を見せていただいた。

創設者顕彰や建学の精神の普及を図るという設置理念に加え、博物館実習を目的の一つとして設置された井上円了記念博物館は、展示室内の面積が125.81㎡であり、展示品数やその趣旨に対して一見するとやや狭いようにも感じるが、そのぶん資料が間近に見られ



北田建二氏の報告を聞く参加者

るというメリットもある。また、展示室奥の小スペースは企画展示コーナーとなっており、学内の教員（研究者）等の協力を得て独創的な展示が展開されるなど、工夫が凝らされている。また、博物館実習の役割を兼ねていることもあり、展示室内では展示技術を学んだ学生による成果展示が行われるだけでなく、資料修繕や撮影等も学生に経験させることができるため、有効に活用されている。

常設展示では哲学館の創設からの歴史と井上円了についてコンパクトに学べるよう、資料配置に気を配っている様子が見られた。北田氏の説明にもあったが、井上円了という人物は非常に個性的で「展示映え」する。「妖怪博士」と呼ばれ、髑髏の収集が趣味であったなど、興味を引くキャラクターであることも、同博物館を訪れた来館者の目を楽しませてくれている。創設者井上円了の残した著書や身の回りの品々などを使用した展示品からは、個別大学史を超えて近代社会の形成を窺うこともでき、自校史を伝える展示であったとしても多様な視点からのアプローチが必要であり、また可能であると感じさせられた。

全国大学史資料協議会

2016年度総会議事録・講演記録

日 時 2016年10月6日(木)

15時～15時50分

場 所 広島大学東広島キャンパス

学士会館2階

レセプションホール

出席会員＜東日本部会＞

愛知大学 学習院 神奈川大学

慶應義塾 國學院大學

芝浦工業大学 創価大学

中央大学 東海大学 東京経済大学

東京農業大学 東北大学

東北文化学園大学 富山大学

日本女子大学 日本体育大学

日本大学 法政大学 北海道大学

武蔵野美術大学 明治学院

明治大学 立教学院

阿部武司 富田美加 林慎一郎

古郡信幸 松田栄作

＜西日本部会＞

大阪商業大学 大阪女学院

大阪大学 大阪府立大学 大谷大学

関西大学 関西学院 近畿大学

熊本大学 甲南学園 神戸女学院

常翔学園 中京大学 同志社大学

梅花学園 広島大学 福岡大学

武庫川女子大学 桃山学院 立命館

龍谷大学

井上美香子

東日本部会＝28会員37名

(内訳:23大学32名、個人他5名)

西日本部会＝22会員30名

(内訳:21大学29名、個人他1名)

総 計＝50会員67名

(内訳:44大学61名、個人他6名)

欠席届提出会員

東日本部会＝39会員

西日本部会＝27会員

司 会 武庫川女子大学 古野 貢氏(全国
大学史資料協議会西日本部会庶務校)

会場校挨拶

広島大学理事(財務・総務担当)

片山純一氏

開会に先立ち、司会から総会成立
の報告があった。

開会挨拶 広島大学 小池 聖一氏

(全国大学史資料協議会会長校)

議長選出 議 長 田辺 勝巳氏(愛知大学)

副議長 溝上真理子氏(甲南学園)

議 題 (1) 2016年度全国大学史資料協議
会役員会の報告について

西日本部会庶務校(武庫川女子大
学・古野貢氏)から、本総会開催に
先立ち開催された全国役員会での審
議内容について報告された(※全国
役員会審議内容は「2016年度役員
会議事録」を参照のこと)。

(2) 2016年度東日本部会・西日本
部会事業計画報告

東日本部会事務局(立教学院・豊
田雅幸氏)、西日本部会庶務校(武
庫川女子大学・古野貢氏)から、各
部会事業計画書に基づき本年度の事
業計画が報告された。

(3) 2016-17年度役員の交代に
ついて

東西両部会の役員が紹介された
後、古野氏から、会長校を神奈川大
学、副会長校を大阪大学、事務局校
を専修大学、立教学院に交代する旨
紹介があり、出席者拍手により承認

された。

(4) その他

東日本部会事務局（立教学院・豊田雅幸氏）から、2017 年度総会・全国研究会を、愛知大学を会場として開催する旨の報告があった。

新会長校挨拶 神奈川大学 池原 治氏

講演 小池 聖一氏（広島大学文書館長）

演題 「初代学長 森戸辰雄にみる「学問の自由」と「大学の自治」

〔概要〕 2016 年度総会終了後、会場である広島大学文書館長の小池聖一氏による、「初代学長 森戸辰男にみる「学問の自由」と「大学の自治」」と題する講演がなされた。森戸辰男は、東京帝国大学在職中に発表した論文に端を発し、大学を休職するに至ったいわゆる「森戸事件」の当事者であるとともに、戦後は社会党代議士から文部大臣に就任後、教育者として初代広島大学学長に就任し、「ミスター中教審」と呼ばれるなど戦後教育の改革に取り組んだ人物である。講演では、森戸の思想的な核となった「学問の自由」と「大学の自治」をめぐる問題について、戦前および戦後の広島大学学長時代における思想や行動をたどることにより、森戸自身の戦前と戦後の思想的連続性について、森戸を取り巻くさまざまなエピソードをふまえて考察された。最後に、本講演の内容に関しては、開催中の文書館企画展(中央図書館)もあわせて参観されたい旨を付け加えられた。（椿田卓士）

情報交換会 講演終了後、広島大学東広島キャンパス学士会館 1 階レストラ

ン「ラ・ボエーム」において、情報交換会を開催した。司会を伊藤信明氏（関西大学）が行い、開会挨拶を菅真城氏（大阪大学・全国大学史資料協議会副会長校）が、乾杯の音頭を池原治氏（神奈川大学・全国大学史資料協議会会長校）がそれぞれ務めた。新規入会会員、全国大会初参加者などの紹介があり、閉会の辞は会場校の小池聖一氏（広島大学）が行った。

全国大学史資料協議会

2016 年度役員会議事録

（第 159 回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会）

日時 2016 年 10 月 6 日（木）

13：30～14：30

場所 広島大学 東広島キャンパス
学士会館 2 階 会議室 2
広島県東広島市鏡山 1 丁目 2-2

出席＜東日本部会＞

学習院（監査委員）
神奈川大学（会長）
國學院大学（運営委員）
東海大学（会計委員）
東京農業大学（運営委員）
日本体育大学（運営委員）
日本大学（副会長）
法政大学（会計委員）
武蔵野美術大学（運営委員）
明治大学（運営委員）
立教学院（事務局）
古郡信幸（運営委員）

＜西日本部会＞

大阪大学（部会長校）
 関西大学（副部会長校）
 関西学院（副庶務校）
 同志社大学（監査校）
 広島大学（会報校）
 武庫川女子大学（庶務校）
 桃山学院（会計校）
 立命館（HP 担当校）

西日本部会庶務校（武庫川女子大学）古野貢氏が司会となり、役員会を開催した。

議 事 (1) 2016 年度総会・全国研究会の運営について

事前に配付された全国研究会日程・役割分担表に基づき、総会・全国研究会の日程・役割分担が確認された（総会・全国研究会日程・役割分担を参照）。

(2) 2016 - 17 年度役員の交代について

2016-17 年度の役員については、会長校が神奈川大学、副会長校が大阪大学、事務局校が立教学院に交代する予定であることが示された。

(3) 2016 年度の東西両部会の共同事業について

2015 年度の叢書第 17 号は、東日本部会が担当し、2015 年度大会中心の内容とし、2016 年 10 月に刊行した。東日本部会 300 部、西日本部会 150 部、合計 450 部発行した。

2016 年度の叢書第 18 号の発行については、西日本部会が担当することとし、2017 年度内に刊行する。参加記を 3 名分（東日本部会 1、西

日本部会 2）掲載することが確認された。

来年度の大会は、会場は愛知大学で実施することを確認した。日程は 10 月の第 1 週または第 2 週を予定し、会場の愛知大学の都合で決定することとした。

(4) その他

ケニス・スミス氏から西口忠氏宛の書簡を研究叢書に掲載することに関して検討した。西口氏に解題を執筆していただき、次号研究叢書第 18 号へ掲載することとなった。その他、本日の 2 次会についてと翌日の有志夕食会のアナウンスがあった。このほか、特に検討事項が出されなかったため、役員会を閉会した。

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第 160 回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日 時 2016 年 10 月 6 日（木）

13 時 50 分～ 14 時 00 分

会 場 広島大学東広島キャンパス

学士会館 2 階会議室 2

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學

東海大学 東京農業大学

日本体育大学 日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

古郡信幸

議 題 (1) 2016 年度全国総会ならびに全国研究会について

・事務局（立教学院）より、本日から

開催される 2016 年度総会ならびに全国研究会での役割分担について確認がなされた。

(2) 2016 年度研究会について

- ・今年度中に実施する 3 回の研究会の準備状況について報告がなされた。
- ・第 102 回は、印刷博物館、第 103 回は、東洋大学と調整中であることが、各担当より報告された。
- ・第 104 回については、学習院の桑尾氏より、東京大学の森本祥子氏に講演を依頼し、快諾を得たこと、3 月 9 日または 16 日で調整中であることが報告された。

第 161 回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2016 年 12 月 1 日 (木)

13 時 00 分～13 時 40 分

会 場 印刷博物館 (トッパン小石川ビル
B1F) ゲーテンベルクルーム

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学
東京農業大学 日本体育大学
日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
古郡信幸

議 題 (1) 2016 年度総会ならびに全国研
究会総括

- ・会計校 (東海大学) より、総会・全国研究会の参加人数および会費徴収内容が示され、西日本部会会計校と確認の上、経費の按分について会長・事務局とも相談し進めていく旨が報告された。

(2) 2016 年度研究会について

- ・第 103 回、第 104 回研究会の準備状況について担当者より報告された。
- ・第 103 回については、東洋大学井上円了記念博物館の見学研究会を予定。開催日を 1 月 26 日 (木) とし、具体的な検討を進めていることが報告された。
- ・第 104 回については、東京大学文書館との調整を進めており、先方への依頼状を今後準備する予定であることが報告された。

(3) 2017 年度総会ならびに全国研
究会について

- ・愛知大学を会場として、10 月 1 週目ないし 2 週目に開催することが確認された。
- ・研究会テーマについては、愛知大学の希望や、会員への研究会アンケートの結果を踏まえて検討していくことが確認された。

(4) 2017 年度東日本部会総会につ
いて

- ・淑徳大学を候補として調整することが確認された。

(5) その他

- ・事務局 (立教学院) より、個人会員の野澤和範氏の退会手続きが終了した旨、報告がなされた。
- ・担当校 (國學院大學) より、会報編集の進捗状況について報告がなされた。
- ・創立 30 周年 (2018 年) 記念事業について意見交換を行い、会員へアンケートを実施することが確認された。

第162回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2017年1月26日(木)

13時00分～14時05分

会 場 東洋大学白山キャンパス2号館

3階・第1会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学 東海大学
東京農業大学 日本体育大学
日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
古郡信幸

議 題 (1) 2017年度東日本部会総会につ
いて

- ・事務局(専修大学)より、淑徳大学・千葉キャンパスを会場として、6月8日(木)に開催できる旨の報告があり、承認した。当日のプログラム等については、次回幹事会で検討することとした。

(2) 2017年度総会ならびに全国研究会について

- ・事務局(専修大学)より、愛知大学・豊橋キャンパスを会場として、10月11日(水)～13日(金)に開催できる旨報告があり、承認した。
- ・情報交換会や見学会について意見交換の後、プログラム等については、次回幹事会で検討することとした。

(3) 2017年度研究会およびアンケート調査について

- ・事務局(専修大学)より、2017年度の幹事校の分担について確認がなされた。これについて、日本

体育大学より、次年度は学内事情により担当の役割を十分に担えない可能性があるとの申し出があり、会長・事務局と連絡を取り対応を検討していくこととした。

- ・ウェブ担当校(神奈川大学)より、会員校アンケートの説明がなされた。年間テーマについては、アンケートをふまえ3月幹事会にて検討することとした。

(4) 創立30周年記念事業およびアンケート調査について

- ・アンケートに基づき、記念事業の内容について検討を行った。事業内容については引き続き検討することとし、記念事業に向けてWGを立ち上げることを確認し、メンバー案は会長・事務局にて検討することとした。

(5) その他

- ・研究叢書および会報について、担当校(國學院大學)より進捗状況の報告がなされた。
- ・会計校(東海大学)より、会費未納者への督促状況の報告がなされた。
- ・会計校(東海大学)より、税務手続きに関する状況報告がなされた。
- ・次回幹事会、研究会を、東京大学・柏キャンパスを会場として、3月9日(木)に開催することが確認された。なお、幹事会は、予定を早めて12時30分から開催することが確認された。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録

全国大学史資料協議会 2016 年度全国研究会
(第 101 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会)

テーマ 「キャンパス形成史」

日 時 10 月 7 日 (金) ～ 8 日 (土)

会 場 10 月 7 日 (金)

広島大学東広島キャンパス

学士会館 2 階 レセプションホール

10 月 8 日 (土)

広島大学東広島キャンパス

広島大学文書館、酒蔵通り (東広島市)

出 席＜東日本部会＞

愛知大学 学習院 神奈川大学

慶應義塾 國學院大学

芝浦工業大学 創価大学 中央大学

東海大学 東京経済大学

東京農業大学 東北大学

東北文化学園大学 富山大学

日本女子大学 日本体育大学

日本大学 法政大学 北海道大学

武蔵野美術大学 明治学院

明治大学 立教学院

阿部武司 富田美加 林慎一郎

古郡信幸 不破聖子 松田栄作

＜西日本部会＞

大阪女学院 大阪大学

大阪府立大学 大谷大学 関西大学

関西学院 京都産業大学 近畿大学

熊本大学 甲南学園 神戸女学院

常翔学園 中京大学 同志社大学

梅花学園 広島大学 福岡大学

武庫川女子大学 桃山学院 立命館

龍谷大学

井上美香子

東日本部会 = 29 会員 40 名

(内訳: 23 大学 34 名、個人他 6 名)

西日本部会 = 22 会員 31 名

(内訳: 21 大学 30 名、個人他 1 名)

総 計 = 51 会員 71 名

(内訳: 44 大学 64 名、個人他 7 名)

開会挨拶 神奈川大学 池原治氏 (全国大学
史資料協議会会長校)

全国研究会テーマ

「キャンパス形成史」

テーマ発題 武庫川女子大学 古野貢氏 (武
庫川女子大学学院資料室)

報告 1 椿田卓士氏 (東海大学学園史資料セ
ンター)

「東海大学湘南キャンパスの『記憶』
～キャンパスの形成と大学史資料～」

〔概要〕 東海大学は 1942 年に学園創立、
1950 年に新制大学として開学した
後、代々木、清水、相模校舎で授
業を行っていた。だが、志願者数
の増加に伴い、校舎が手狭となり、
1963 年に湘南キャンパスを開設。
「大自然の中に抱かれて、偉大な気
宇を養えるところで勉強させる必要
がある」という創立者・松前重義の
理想のもと、農業用地を買収。松前
の盟友であった建築家・山田守に設
計を依頼し、まだ周辺には麦わら葺
き屋根の家が点在していた地に、Y
字型の独創的な外観の建物や大ホー
ルなどを建設していった。

1970 年代には阿蘇、伊勢原キャ
ンパスなど湘南以外での建設ラッ
シュとなり、1980 年代以降になる
と校舎は近代的高層化の傾向となっ
た。2000 年代に入ると地域住民を

意識した変化が見られ、コンビニやカフェを建設。そして現在は「国際レベルでの研究拠点」を具現化する施設を志向しているという。

こうしたキャンパス形成の記録資料は図面のほか、模型や写真といった視覚的に具象化された資料が必要である。しかし、模型は保存場所や修理の問題など課題もある。そして写真は収集だけでなく自分たちで継続的に記録しなければならない。また、閉鎖するキャンパスから資料の廃棄、散逸を防ぐため、どう保存し次代に伝えていくかも考える必要があると述べた。（阿久津朋子）

報告 2 塚本俊明氏（広島大学産学・地域連携センター）

「キャンパスを計画する」

〔概要〕 東広島市西条の出身で広島大学建築学科の卒業生である塚本俊明氏は、都市計画を専門とされ、日本建築学会の「大学・地域デザイン小委員会」のメンバーでもある。報告では、欧米における大学とまちが渾然一体となった「大学都市」、また、中央の芝生広場を囲んだキャンパス空間の形成について、具体例を挙げ解説された。国内においても、大学の役割や学生数の変化に伴いキャンパスの概念も変化しつつあるとの指摘があった。

さらに、文科省の肝いりの下多くの大学で策定されつつある「キャンパスマスタープラン」について、名古屋大学を例に、横文彦氏の国内処女作である豊田講堂を中心として名古屋城への軸線が作られていること

を紹介された。これは、長期的にどのようなキャンパスを目指すのかというフレームワークプランの概念が活かされたものという。これらプランの作成にあたって、各大学の歴史的・文化的視点からの評価や共通理解が進むことに期待が示された。

（大坪潤子）

報告 3 奈良英久氏（立命館史資料センター）
「学園アイデンティティ醸成のためのキャンパス模型―何も残っていないから、目的を特化して再現する―」

〔概要〕 キャンパス模型を素材に使った事例報告として、「キャンパス形成史」をテーマとする4つの報告の中でも、とりわけ興味を引く報告となっていた。学校法人立命館の場合は、私塾「立命館」・広小路「京都法政学校」・清輝楼という草創期の3つのキャンパスがすべて残っていないという事情もあって、模型に学園アイデンティティの象徴としての意味づけが与えられた経緯が説明された。また、立命館の場合は、学びたい若者に夜間に学べる場を提供する「夜学」が学園アイデンティティの中心であり、創立のキーワードであったことが説明された。模型製作にはそれなりの予算が必要だが、この模型はジオラマがイメージする大型のものではなく、持ち運びができるものとして製作され、人の集まる所に持ち込んで展示することが当初から企図されていたという。模型が、キャンパスを感覚的に伝える有効なモノ資料であることを伝える報告となっていた。（谷口 豊）

報告 4 佐伯裕加恵氏（神戸女学院史料室）
「重要文化財神戸女学院（岡田山キャンパス）」

〔概要〕 佐伯氏は、「岡田山キャンパスが神戸女学院にとってどのような意味をもっているか」というテーマで報告を行った。

神戸女学院キャンパスは、1933年に現在の西宮市岡田山に移転した。構内には新旧あわせ 36 棟の建物があるが、このうち 12 棟が移転当時のものである。キャンパス全体は、伝道者・建築家として広く知られるウィリアム・ヴォーリズの設計である。2014 年 9 月 18 日付で国の重要文化財の指定を受けたが、これはキリスト教精神に基づく教育理念が込められたキャンパスを、今日まで守ってきたことが評価された。なお、指定名が「重要文化財神戸女学院」となっているのは、指定の対象が、これらの 12 棟を含むキャンパスの主要な場所に及んでいるからである。

佐伯氏は、本学が守っていかなければならないのは、移転当時から現存する建物だけではない。建物を含むキャンパスを通して伝えられている教育理念、さらにはミッションスクールとしてのアイデンティティーである、と述べられた。最後に神戸女学院のキャンパス形成史は、本学の教育理念の形成史であり、学校そのものと言える。私たちは過去を振り返り、「自分たちに求められているのは何であるのか」というテーマについて、見つめ直す時がきている、

と述べ、本報告を結ばれた。

（古郡信幸）

総括討論

司 会 中川 壽之氏（中央大学大学史資料課）
石田 雅春氏（広島大学文書館）

パネリスト 椿田 卓士氏（東海大学学園史資料センター）

塚本 俊明氏（広島大学産学・地域連携センター）

奈良 英久氏（立命館史資料センター）

佐伯裕加恵氏（神戸女学院史料室）

〔概要〕 総括討論は、中川壽之氏、石田雅春氏の司会進行で開始された。はじめに中川氏の進行で 4 報告に対する質疑とその応答がなされた。内容は「資料調査・保存をめぐる事務局との協力体制」「模型製作や施設保存によるアイデンティティ醸成の事例や今後の展望」「古い施設を残すことによるデメリット（バリアフリー化の限界）」等に関するものであった。質問を受けた報告者から個々に回答及び補足説明を行った。

続いて石田氏の進行により、全体討論に移った。「設計図面等の大型資料の保存について」「周辺地域の資料をどこまで収集・保存すべきか」「大学のアイデンティティ形成とキャンパスとをどのように関連付けていくべきか」等をテーマにして、活発な討議が行われた。キャンパスの歴史をどのように残し、新しいキャンパスにもそのことを活かし、大学全体の価値を高めていくことが出来るのか、歴史・建築工学含め分野の垣根

を越えた幅広い検証が必要なことを
改めて確認し、総括討論を終えた。

(村松玄太)

※各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第 18 号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 大阪大学 菅真城氏(全国大学史資料協議会副会長校)

見学会 広島大学東広島キャンパス 広島大学文書館、酒蔵通り(東広島市)

〔概要〕 2016 年度全国大学史資料協議会総会・全国研究会の最終日 10 月 8 日(土)の見学会では、午前 9 時半から、平成 23 年の「公文書等の管理に関する法律(通称：公文書管理法)」で政令指定施設となった広島大学東広島キャンパス内にある広島大学文書館を A、B グループに分かれて見学した。

最初に、広島大学文書館の石田雅春氏より文書館の組織図と大学史資料の収集・整理・公開(個人文庫等の資料の点数、寄贈経緯、目録刊行と公開状況)について説明を受け、「森戸辰男記念文庫」、「平和学術文庫」、「梶山季之文庫」などの個人文庫を視察した。また、同文書館内にある専用の冷凍庫を活用した低温燻蒸についての説明を受けた。

次に、法人本部棟 1 階にある公文書分室に移動し、同文書館の村上淳子氏より公文書室の書庫概要(面積等)、所蔵資料点数(平成 28 年 4 月 1 日現在)、所蔵資料利用状況、移管元行政機関等による請求状況、レファレンス実施状況および法人文書管理関係の年間の主要業務一覧に

ついて説明を受けた。(秋山彩子)

第 102 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日 時 2016 年 12 月 1 日(木)

14 時 00 分～16 時 30 分

会 場 印刷博物館ゲーテンベルグルーム

出 席 お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 國學院大學

国際基督教大学 淑徳大学

女子美術大学 専修大学 創価大学

大東文化大学 東海大学

東京農業大学 東邦大学

東洋学園大学 獨協学園

日本女子大学 日本体育大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

明星大学 立教学院 早稲田大学

高橋保 林慎一郎 古郡信幸

細身大作 松田栄作 益井邦夫

(以上 42 名)

会長挨拶 池原 治

(神奈川大学大学資料編纂室)

司 会 渡邊 卓(國學院大學)

研究会テーマ

印刷博物館見学

報 告 「印刷博物館の概要」「企画展『武士と印刷』について」

宇田川 龍馬(印刷博物館学芸員)

「高精度 OCR 全文テキスト化の技術紹介」

大澤 留次郎(凸版印刷(株)クリエイティブ本部)

〔概要〕 凸版印刷のプライベートミュージアムである「印刷博物館」において、研究会及び見学会を開催した。学芸員・宇田川龍馬氏より「印刷博物館

の概要」「企画展『武士と印刷』について」をご報告いただいた後、凸版印刷の大澤留次郎氏より「高精度 OCR 前文テキスト化の技術紹介」を伺った。

同博物館の目的は印刷の価値や可能性を紹介し、印刷への理解と関心を深めることにあり、「かんじる（感覚）」「みつめる（発見）」「わかる（理解）」「つくる（創造）」というキーワードに沿った展示フロアのそれぞれの特色の説明を受けると同時に、特に現在開催中の企画展の内容について詳細な解説をしていただいた。VR シアターや最新技術を駆使した進化する博物館を目指し、今企画展では江戸時代の武士による印刷を「摺らせた武士」、武者絵となった「摺られた武士」があることに着目し、武士による知的活動を紹介することで、印刷が武士による文治政治にも深く関わっていた事実をわかりやすく紹介している。

途中、印刷博物館における資料保存・管理についても言及され、7 万件に及ぶ多様な形態の収蔵資料を収める収蔵庫内の徹底した環境管理の状況を端的に説明いただいた。また、独自開発された OCR 技術の説明からは、アーカイブ資料の文字読み取り（テキスト化）への今後の活用が期待された。

上記ご報告の後、「紀元前以降現代までの印刷文化の歴史を一望する大壁面」となっている印刷博物館の常設展示（プロローグ展示ゾーン）にて宇田川氏の解説を受け、全 5

時間に及び映像を含む企画展示ゾーン及び総合展示ゾーンを見学し、定刻となり散会した。（浅沼薫奈）

第 103 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日 時 2017 年 1 月 26 日（木）

14 時 00 分～16 時 30 分

会 場 東洋大学白山キャンパス 2 号館
3 階 第 1 会議室、井上円了記念博物館

出 席 お茶の水女子大学 学習院
神奈川大学 國學院大學
芝浦工業大学 淑徳大学
女子美術大学 専修大学
大東文化大学 帝京大学 東海大学
東京農業大学 東邦大学 東洋大学
東洋学園大学 日本女子大学
日本体育大学 日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
明星大学 立教学院
中村青司 林慎一郎 古郡信幸
松田栄作 益井邦夫 内山宏

（以上 36 名）

会長挨拶 池原 治

（神奈川大学大学資料編纂室）

司 会 浅沼 薫奈（大東文化大学）

会場校挨拶 柴田 隆行

（井上円了研究センター長）

研究会テーマ

井上円了記念博物館見学

報 告 「東洋大学井上円了記念博物館について」

北田 建二（井上円了記念博物館学芸員）

〔概要〕 始めに井上円了研究センター長柴田館長並びに井関研究助手より挨拶

があり、井上円了記念博物館北田学芸員より報告があった。井上円了記念博物館は建学の精神を学内外に広くアピールすることなどを目的として2005年4月に井上記念館内に設置された。通常の博物館の業務である収拾・整理・保存の他に博物館実習の場となっており、実習成果展示として特別展を開催している。限られたスペースを工夫して、展示スペースを確保しており、採光用の窓をパネル等で塞ぐという苦勞も見られた。博物館実習室も考古資料の保管庫を兼ね、様々な実習に対応する工夫がされている。図書館も見学をさせていただいたが、貴重資料も自由に手に取ってみることができるようになっており、利用者にとっては使いやすいシステムであった。ただし、井上円了に関する最貴重資料については別置き、リクエストをして閲覧するようになっていた。

(畑川直哉)

全国大学史資料協議会

東日本部会会員名簿

(2017年1月26日現在)

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ・医学情報センター (図書館)
- 2 愛知大学 東亜同文書院大学記念センター・(豊橋研究支援課)
- 3 青山学院 資料センター
- 4 お茶の水女子大学 歴史資料館
- 5 学習院 学習院アーカイブズ
- 6 神奈川大学 大学資料編纂室
- 7 関東学院 学院史資料室
- 8 国立音楽大学 校史資料室
- 9 慶應義塾 福澤研究センター
- 10 恵泉女学園 史料室
- 11 皇學館大学 研究開発推進センター
- 12 國學院大學
校史・学術資産研究センター
- 13 国際基督教大学 歴史資料室
- 14 国土館 国土館史資料室
- 15 駒澤大学
禅文化歴史博物館大学史資料室
- 16 芝浦工業大学
経営企画部企画広報課・図書館
- 17 自由学園 自由学園資料室
- 18 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
- 19 上智大学 史資料室
- 20 女子美術大学 歴史資料室
- 21 成城学園
教育研究所 (成城学園百年史編纂室)
- 22 聖心女子大学 総務部
- 23 聖路加国際大学 学術情報センター
大学史編纂・資料室
- 24 専修大学 総務部大学史資料課
- 25 創価大学 創価教育研究所
- 26 大東文化大学
大東文化歴史資料館 (大東アーカイブス)
- 27 拓殖大学 創立百年史編纂室
- 28 玉川大学 教育博物館
- 29 多摩美術大学 大学史編纂室
- 30 中央大学 広報室 大学史資料課
- 31 津田塾大学 津田梅子資料室
- 32 帝京大学 帝京大学総合博物館
- 33 東海大学 学園史資料センター
- 34 東京家政大学
広報連絡会議 (総務部総務課)
- 35 東京経済大学 図書館・史料室
- 36 東京女学館 史料編纂室

- 37 東京女子医科大学
史料室・吉岡彌生記念室
- 38 東京女子大学
大学運営部総務課 大学資料室
- 39 東京電機大学 総務部（企画広報担当）
- 40 東京農業大学 図書館事務課
- 41 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
（法人本部経営企画部）
- 42 東北学院 東北学院史資料センター
- 43 東北大学 史料館
- 44 東北文化学園大学
図書館事務室（学園史編纂室）
- 45 東洋英和女学院 史料室
- 46 東洋学園大学 東洋学園史料室
- 47 東洋大学 井上円了研究センター
- 48 獨協学園 獨協学園史資料センター
- 49 富山大学 総務部アーカイヴズ設置検討準備室
- 50 南山学園 南山アーカイブズ
- 51 日本医科大学 図書館
（史料館（仮称）設立準備室兼任）
- 52 日本女子大学 成瀬記念館
- 53 日本体育大学 図書館
- 54 日本大学 企画広報部広報課
- 55 フェリス女学院 資料室
- 56 法政大学 法政大学史センター
- 57 北海道大学 大学文書館
- 58 武蔵学園 記念室
- 59 武蔵野美術大学 法人企画グループ法人企画チーム 大学史史料室
- 60 明海大学 浦安キャンパス
メディアセンター（図書館）
- 61 明治学院 歴史資料館
- 62 明治大学 大学史資料センター

- 63 明星大学 明星教育センター
- 64 立教学院 立教学院展示館
- 65 立教女学院 資料室
- 66 立教大学 立教学院史資料センター
- 67 立正大学
学長室 大学史料編纂課・史料編纂室
- 68 早稲田大学 大学史資料センター

以上機関会員 68・個人会員 37・名誉会員 6

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【専修大学 総務部大学史資料課】

〒101-8425

東京都千代田区神田神保町 3-8

☎ 03-3265-5879

【立教学院 立教学院展示館】

〒171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1

☎ 03-3985-4841

会 報 編 集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】

〒150-8440

東京都渋谷区東 4-10-28

☎ 03-5466-6677